

## 第2部 トーク&amp;コンサート

ヴァイオリニスト 増田 太郎

〔ヴァイオリン演奏〕

## 【増田】

こんにちは。——元気ないな。もう一回いってみましょう。こんにちは。

(「こんにちは」という元気な声)

すばらしい。

増田太郎です。よろしくお願いします。拍手。

(拍手)

僕はふだん、コンサートで演奏をしたり、ラジオ番組でしゃべったり、全国の自治体、企業、学校、そういったところに伺って、お話もたっぷり聞いていただきつつ音楽も楽しんでもらう講演ライブをしています。

今日、このような大変意義深いシンポジウムにお招きいただき、演奏できることを本当に特別に光栄に感じています。

始まってしまえばおしまいまであつという間だと思いますが、皆さんどうぞごゆっくり、リラックスしてお楽しみください。よろしくお願いします。(拍手)

早速ですが、ここでリサーチをしてみたいと思います。今日この会場の福島テルサに一体どんな皆さんが集まってくださっているのか、まずは男女比辺りから行ってみたいと思います。

男性の皆さん手をたたいてみてください。

(男性拍手)

ありがとう。こちらに一人とても元気に手をたたき男性がおられましたね。

それでは、女性の皆さんどうぞ。

(女性拍手)

ありがとう。福島は、圧倒的に女性が強いですね(笑)。

それでは、今日この会場に福島市内からいらしてくださっている皆さん手をたたいてみてください。

(該当者拍手)

はい。正面からちょっとフライング気味に手をたたいてくれた方がいました。

それでは、福島市以外の福島県内からこの会場にいらしてくださっている皆さん。

(該当者拍手)

ありがとうございます。

それでは、福島県以外から、今日この福島テルサにいらしてくださっている皆さんいたら手をたたいてみてください。

(該当者拍手)

どうもありがとう。

ということで、今日の大体の皆さんの勢力分布が(笑)、分かってきたところで、次の質問にいきたいと思います。

僕が今持っている楽器(ヴァイオリン)ですが、このヴァイオリンの生演奏を、今日生まれて初めて聞くという方はどのぐらいいらっしゃるでしょうか。手をたたいてみてください。

(該当者拍手)

はい。割と後ろのほうからだんだん前のほうに……。

僕がヴァイオリンを始めたのは5歳の頃で、最初はやはりクラシックでした。こんな感じです。



増田 太郎さん

[ヴァイオリン演奏]

(拍手)

ありがとうございます。

でも、ヴァイオリンというのは、実はロックとかも弾けるんですよ。

[ヴァイオリン演奏]

(拍手)

ロック、エイツ。

こういったロックも含めて、ここまでのことならほかのヴァイオリニストも演奏します。でも、増田太郎はここからが違う。ヴァイオリンで音楽以外の音が出せないか、いろいろ研究してみました。例えば [ヴァイオリン演奏]、踏切。今は全国のJRの踏切ですが、東京に行くと小田急線というのが走っています。小田急線の踏切はちょっと違う。小田急線は [ヴァイオリン演奏]、JRは [ヴァイオリン演奏]、小田急は [ヴァイオリン演奏] (拍手)。さらに東京には西武線というのが走っています。この西武線の踏切がまた違う。西武線は [ヴァイオリン演奏]、JRは [ヴァイオリン演奏]、小田急は [ヴァイオリン演奏]、西武は [ヴァイオリン演奏]、踏切でした。(拍手)

今までで一番温かな拍手をどうもありがとうございました。

今は東京ローカル、地域限定のネタでしたが、次のこの音は全国区、この音は何でしょうか。[ヴァイオリン演奏]、通り過ぎましたね。救急車です。

次は、一番最近開発した小ネタをやります。これは何の音でしょうか。[ヴァイオリン演奏]、「いらっしゃいませー」、コンビニですね。

こうやっていろいろな音を開発してきたわけですが、今、自分が開発してきた音の中で一番気に入っているのはこれです。何の音でしょうか。[ヴァイオリン演奏]、牛、[ヴァイオリン演奏]、牛でした。(拍手)

この牛をやると、チューニングがガタガタになってしまうんです。実は、結構命がけのネタだったりするのですが。

[ヴァイオリンチューニング]

といったところで、ヴァイオリンの権威もすっかり地に落ちたところで、ここで一曲僕のオリジナルを演奏したいと思います。この曲は、2009年、アメリカ・ニューヨーク・セントラルパークの野外特設ステージで開催された「ジャパン・デー」で、4万5000人を超えるニューヨーカーを前に演奏するためにつくった曲です。ふだんはギタリスト、ピアニスト、パーカッションなどバンドメンバーと一緒に演奏している結構激しい曲ですが、今日は福島スペシャルバージョンでお届けしたいと思います。そして、実はこの曲は、去年の6月まで『美の巨人たち』というテレビ番組のエンディングテーマとしても放映されていました。『ワルツ・ノワール』という曲を聴いてください。

[ヴァイオリン演奏：ワルツ・ノワール]

(拍手)

『ワルツ・ノワール』という曲でした。

僕は、今までにも、ここ福島には何度も演奏にお招きいただいています。福島成蹊中学の開校記念式典講演ライブ、福島市立第一中学校、信夫中学校、本宮第二中学校、そして平田村立小平中学校、郡山萌世高校、田村市で開催された立志式、伊達市青少年健全育成会議での演奏、そして先ほど第1部のシンポジウムにも登壇されていました阿部光裕住職のお寺(常圓禅寺)で開催されました明るい寺子屋「つるりん学校」で



会場風景

のステージ、ほかにもいろいろなところで演奏をさせていただいています。

そして、ラジオ・チャリティー・ミュージックソン、この番組企画で、森山直太朗さんと一緒にクリスマス・イヴのラジオ福島に伺っての生放送、そういったこともやりました。

そうやって福島に伺うたびに、本当に皆さん満面の笑みで、とても温かく、ときには熱く僕らを迎えてくださって、演奏が終わった後に、そんな皆さんと握手をさせていただく機会もよくあるのですが、福島の皆さんの握手の握力、他県を圧倒していると思います（笑）。

そんなふうに、本当に毎回とても素敵な時間を授かる福島での演奏を、僕は本当にいつも、いつも楽しみだし、そして皆さんと一緒に過ごした一つ一つのステージは、僕にとって本当に大切なかけがえのない思い出ばかりです。

2011年3月11日に発生した東日本大震災、今まで演奏に伺ったあちこちの町が、連日「被災地」として報道される中、自分には一体何ができるのだろう、そのことを何度も何度も繰り返し、そして今も考えて続けています。

そんな僕に大きな力をくれたのは、震災が発生してすぐに放送されていた、あるテレビの報道番組の中で、被災された方が話されていた言葉でした。その方は、「今必要なものは……」という質問に対して、食料、生活必需品、それらとともに「生の音楽、と答えていらっしゃいました。

それから、僕はすぐにホームページで一つの曲を発表しました。そしてこの曲は、それ以降、演奏に伺ったすべてのステージで思いを込めて演奏しています。「たとえ今不安の中にあっても、それでも不安ではなく、希望を胸に未来に向かってともに歩き続けていけますように、という願いを込めて『希望の景色』を聴いてください。

〔ヴァイオリン演奏：希望の景色〕

（拍手）

〔ヴァイオリン演奏：浜辺の歌〕

（拍手）

この曲は、今までにも日本全国、そしてニューヨークに行ったときにも演奏してきました。でも、あの震災が発生してから、なかなか弾くことができずにいました。今日は、一日も早く穏やかな日々が訪れますようにという願いを込めて演奏させていただきました。『浜辺の歌』を聴いていただきました。

それでは、ここでピアノに移動したいと思います。

あの震災が発生した2011年の暮れに東京で開催したコンサートに、福島から参加して下さった方から、コンサートの少し前一通のメールをいただきました。

「3月11日以降、生活が、気持ちが、人を信じるということが大きく変わってしまいました。雲一つない青空を見上げては、見事な紅葉を見ては、ぼんやり窓の外を眺めては涙が出てきます。どうしてこんなに普通なのに普通じゃないんだろう」

御自身のお子さんのことを気遣いながら迷い、悩み、戸惑いながら懸命に一步踏み出そうとしている、そんな思いが伝わったメールでした。そのメールを何度も何度も読み返しながら、福島で、そして今それぞれの場所で、様々な思いを胸に懸命に歩き続けている。そんな皆さんを思いつくった『それでもぼくらは生きていこう』、聴いてください。

〔歌唱：それでもぼくらは生きていこう〕



会場風景

(拍手)

去年の6月、震災後3度目に訪れた(宮城県)石巻で、何もなくなってしまった宅地跡、遮るものが何もないその場所に立って、吹き抜ける風の中、たった一輪咲いているヒマワリの花がありました。その花に触らせてもらったとき「この花は咲いているのではない、今この場所で生きているんだ、そう強く感じて、熱くこみ上げるものがありました。

精いっぱい、気高く、美しく輝く命、今この瞬間をともに生きている、そう感じさせてくれる皆さんの命を思いながらつくった曲『ひまわり』を聴いてください。

[歌唱：ひまわり]

(拍手)



会場風景

どうもありがとうございます。

こんなふうにな国のいろいろな場所で、たくさんの皆さんの前で演奏をさせていただいて、何が一番楽しみかという、それはもちろん聴いてくださっている皆さんの反応をダイレクトに感じられる、そんな瞬間です。それは、今のようにステージと客席でというのはもちろんですが、もう一つ、この「トーク&コンサート」が終わった後、僕のホームページを経由して届く皆さんからの感想メール、掲示板への感想書き込み、フェイスブック、ツイッターへの感想、メッセージ、これを読んでいるときも、本当に幸せな気持ちになります。

実は、僕のパソコンはしゃべるんですよ。なので、普通にメールをするように漢字を使っていたとしても顔文字を使っていたとしても全然問題ないので、皆さんの好きなやり方でメール、メッセージをどしどし頂けたら本当にうれしいです。頂いたメッセージは、必ずすべて目を通してあるので、ぜひホームページからメッセージを送っていただけたら……。ちょっとパソコンを使うのが苦手という方は、その辺にいる家族、知り合いを捕まえて、そういった人から送っていただいても本当にうれしいので、是非皆さんどしどしメッセージを送ってください。皆さんからのメッセージが読めることを楽しみに、楽しみにしています。

そして実は僕は、明日(1月20日)日曜日、夜7時半からNHKラジオ第2放送で放送されます『聞いて聞かせて』という番組に30分出演します。ということで、何ととってもNHKは全国ネットですから、どこにいても聞くことができますので、あした夜7時半から30分、NHKラジオ第2放送、よかったらチューニングを合わせてみてください。また、ラジオの中で、あなたと再会できることを楽しみに、楽しみにしています。

「一人でも生きていけるように、そんな思いで僕は音楽を始めました。でも、演奏を続ければ続けるほど、たくさんの出会いを重ねれば重ねるほど強く、強く思うのは「一人では生きていけない、そして「どんな人も決して一人で生きてはいけない、ということでした。

「一人一人の心の復興を目指して」、今日のこの時間が、僕らが共に歩き続けていく日々、そのスタートとなることを心から願っています。また必ず福島に戻ってきます。思いを込めて、希望を音に乗せて、高らかに奏でていきたいと思っていますので、そのときは、またぜひ会いに来てください。皆さんと再会できることを、再会の握手が交わせることを今から楽しみに、楽しみにしています。

今日、僕と皆さんとが出会うきっかけをつくってくださいました、このシンポジウムを主催してくださった、開催に御尽力くださった、心を尽くして準備してくださった主催者並びに関係者の皆さん、本日はどうもありがとうございました。

(拍手)

そして、僕の思いを乗せた言葉、声、歌、演奏、これを客席の皆様まで届けてくれたのは、福島テルサの館長さん、そして照明は佐藤さんでした。そんな音響、照明チーム、そして手話通訳、パソコン要約筆記の皆さんにも、会場スタッフの皆さんにも大きな拍手を。

(拍手)

そして、ただ黙って椅子に座って演奏やお話を聞くのではなく、ときには拍手とともに、そして笑い声とともにこの「トーク&コンサート」に参加して下さった客席の皆さん、自分自身に大きな拍手を。

(拍手)

僕らが出会えた福島に大きな、大きな、大きな拍手を。

(拍手)

それでは、今日出会えたことに感謝の気持ちを込めてもう一曲、ヴァイオリンを弾きながら歌わせていただきます。

これからの皆さんの毎日が、たとえどんなときも希望とともにありますように『ぼくにはきみがいる』、聴いてください。

[歌唱・ヴァイオリン演奏：ぼくにはきみがいる]

(拍手)

どうもありがとうございました。増田太郎でした。また会いましょう。バイバイ。

(拍手)



会場風景

〔演奏曲目〕

1. You raise me up
2. ワルツ・ノワール
3. 希望の景色
4. 浜辺の歌
5. それでもぼくらは生きていこう
6. ひまわり
7. ぼくにはきみがいる

《それでもぼくらは生きていこう》

作詞・作曲 / 増田太郎

何度も 何度も 自分自身に問いかけてる  
「なにができるの」「どこからはじめればいいのか」  
気持ちばかり 空回りして

静かに 静かに 降り積もる悲しみの中  
泣き顔のまま 微笑もうとするあなたに  
かける言葉も 見つけられず

それでもぼくらは歩いていこう 命の炎を掲げていこう  
信じる気持ちが折れそうな時も それでもぼくらは生きていこう

誰もが どんな時にも  
強くられるわけじゃないから  
誰かの言葉に 胸の奥がざわついてても  
自分を責めてしまっても

それでもぼくらは歌っていこう 希望の扉を叩いていこう  
とめどなく涙がこぼれ落ちてても それでもぼくらは生きていこう

あなたが心に閉じ込めた 想いがあふれ出したなら  
まっすぐ目をそらさず どんな言葉も遮らず  
いつまでも話を聴こう 受けとめよう

ぼくらは歩き続けよう 命の炎を掲げていこう  
信じる気持ちが折れそうな時も それでもぼくらは生きていこう

ぼくらはともに歌おう 希望の扉を叩いていこう  
わけもなく涙がこぼれ落ちてても それでもぼくらは生きていこう

何度も 何度でも  
立ちあがれるよ  
生命あるかぎり

《ひまわり》

作詞・作曲 / 増田太郎

ひび割れ乾いた地に 撒かれたひとつの種  
この地に生きる証を その身に刻みながら

届かぬ空を目指し 冷たい雨に打たれ  
やまない風にあおられ ふるえる蕾開いて

よるべなき この場所が 今あなたが生きる場所なら  
あるがままのその姿で 今をこの時を咲き誇れよ

しるべなきこの時に 今あなたと出会えたから  
声なき声に耳をすませて 長くて孤独な夜を越えて

咲き誇れ 咲き誇れ 今ぼくらが生きる場所で  
あるがままのこの命で 今をこの時を咲き誇れよ

あなたが散った後に 新たに芽吹く種も  
果てない空を目指す つなげる 命を

《ぼくにはきみがいる》

作詞・作曲 / 増田太郎

樹々には陽の光が 花に風がそよぎ  
土を雨がうるおし ぼくにはきみがいる  
空は海を包んで 海は空を映し  
星は月と歌って ぼくにはきみがいる

好きだよ 好きだよ

鳥には大空が 魚たちに海が  
獣には大地が ぼくにはきみがいる

父親に愛が 母親に強さが  
子ども達には夢が ぼくにはきみがいる

好きだよ 好きだよ  
ぼくにはきみがいる

唇に歌を 瞳には光を  
ぼくの中にいつでも 大切なきみがいる

ぼくの中にはいつも  
大好きなきみがいる

ぼくにはきみがいる ぼくにはきみがいる